

令和2年度 重点研究の総合評価（事後・中間）

■重点研究 事後評価（R元年度終了）

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果					総合評価	
		内容 の妥 当性	目標 の達 成度	活用 の可 能性	評 価	意見	評 価	意見
保温装備と耐雪性を強化した北海道型ハウスの無加温周年利用技術の確立								
○上川農業試験場 花・野菜技術センター 道南農業試験場 北方建築総合研究所 (H29-R1)	b	b	b	B	道内の野菜生産の収益性向上が期待できる研究成果であり、道内各地での事例を積み重ねながら、広く普及を図ること。	B	道内各地での事例を積み重ねながら、広く普及を進めること。	
道産メロンの冬季供給を可能とする長期貯蔵出荷体系の確立								
○花・野菜技術センター 工業試験場 (H29-R1)	b	b	a	A	適用可能な品種の拡張に努め、関係団体と連携して冬季出荷の事例を増やし、研究成果の普及を進めること。	A	適用可能な品種の拡張に努め、関係団体と連携して冬季出荷の事例を増やし、研究成果の普及を進めること。	
牛白血病ウイルス清浄化を目指したウイルス伝播防止技術体系の構築								
○畜産試験場 (H29-R1)	a	b	a	A	牛白血病ウイルスの深刻な発生に対して、農家の規模や実情に合わせた対策方針を示せる成果である。有効な対策につながるように、開発したシミュレーションモデルの改良を進めること。	A	有効な対策につながるように、開発したシミュレーションモデルの改良を進めること。	
日本海海域における漁港静穏域二枚貝養殖技術の高度化と事業展開の最適化に関する研究								
○中央水産試験場 函館水産試験場 栽培水産試験場 地質研究所（現：エネルギー・環境・地質研究所） 工業試験場 (H28-R1)	b	b	a	A	日本海沿岸の地域漁業者と連携する振興策として、二枚貝養殖技術の事業展開に活用すること。	A	日本海沿岸の地域漁業者と連携する振興策として、二枚貝養殖技術の事業展開を支援すること。	
カラマツヤツバキクイムシ被害拡大抑制技術の開発								
○林業試験場 (H29-R1)	b	b	b	B	カラマツヤツバキクイムシ被害拡大の原因解明を進めるとともに、被害による経済的な損失を抑制するため、森林管理事業体などに UAV による被害把握手法を普及すること。	B	カラマツヤツバキクイムシ被害拡大の原因解明を進めるとともに、被害による経済的な損失を抑制するため、森林管理事業体などに UAV による被害把握手法を普及すること。	

(つづき)

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
		内容 の妥 当性	目 標 の達 成度	活 用 の可 能性	評 価	意 見	評 価
道産広葉樹を原料とした粗飼料の開発							
○林産試験場 (H29-R1)	b	a	a	A	中小径広葉樹材の新たな活用法として有効な研究成果である。さらにデータを積み重ね、シラカンバ粗飼料の優位性を統計的に明らかにするとともに、乳用牛への適用性の検討を行い、生産者への普及に努めること。	A	さらにデータを積み重ね、シラカンバ粗飼料の優位性を統計的に明らかにするとともに、乳用牛への適用性の検討を行い、生産者への普及を進めること。
大型産業機械部品のメンテナンスに向けた環境調和型洗浄技術の開発							
○工業試験場 (H29-R1)	b	b	b	B	ランニングコストも含めた実用性の検討を行い、技術の普及を進めること。	B	ランニングコストも含めた実用性の検討を行い、技術の普及を進めること。
網走湖のシジミ漁業被害の解消に向けたカビ臭要因植物プランクトンの発生予測手法の開発							
○環境科学研究センター (現：エネルギー・環境・地質研究所) さけます・内水面水産試験場 (H29-R1)	b	b	b	B	シジミ漁の適切な実施判断につながるよう現場での検証を行うこと。	B	シジミ漁の適切な実施判断につながるよう現場での検証を行うこと。
ニセコ地域における地熱構造モデル構築と地熱資源量評価							
○地質研究所（現：エネルギー・環境・地質研究所） (H29-R1)	b	b	b	B	本研究で得られた成果をもとに、今後、温泉への影響評価を進め、研究成果の普及・活用を図ること。	B	本研究で得られた成果をもとに、今後、温泉への影響評価を行い、研究成果の普及・活用を進めること。
道産資材を用いた木造高断熱外壁の防耐火構造の開発							
○北方建築総合研究所 林産試験場 (H29-R1)	b	b	a	A	開発された外壁が道内で広く活用されるよう、道民や建築業者への普及を進めるとともに、引き続き大臣認定の取得に向けた取り組みを進めること。	A	開発された外壁が道内で広く活用されるよう、道民や建築業者への普及を進めるとともに、引き続き大臣認定の取得に向けた取り組みを進めること。
津波による最大リスク評価手法の開発と防災対策の実証的展開							
○北方建築総合研究所 地質研究所（現：エネルギー・環境・地質研究所） 林業試験場 (H29-R1)	b	b	b	B	開発した手法の実証を進め、多くの自治体で地域特性に応じた防災対策が取られるよう、普及に努めること。	B	開発した手法の実証を進め、多くの自治体で地域特性に応じた防災対策が取られるよう、普及を進めること。

■重点研究 中間評価（継続）

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
		研究の進捗	目標達成見込	活用の可能性	評価	意見	評価
新規ウイルス検査法を導入した道産にんにくのウイルスフリー種苗管理技術							
○花・野菜技術センター 上川農業試験場 (R1-R3)	a	b	a	A	当初目標を達成するよう着実に研究を進めること。	A	当初目標を達成するよう着実に研究を進めること。
道産地鶏の販売拡大を目指した北海地鶏Ⅲの生産性向上と商品価値の明確化							
○畜産試験場 食品加工研究センター (R1-R3)	b	b	b	B	北海地鶏Ⅲのブランド化、他府県地鶏との差別化につながるように、成分特性を把握して加工品開発を検討すること。さらに、認知度の向上につながる取り組みを展開すること。	B	北海地鶏Ⅲのブランド化、他府県地鶏との差別化につながるように、成分特性を把握して加工品開発を検討すること。さらに、認知度の向上につながる取り組みを展開すること。
海岸流木処理対策の効率化・迅速化のための漂着量把握技術の開発							
○環境科学研究センター (現：エネルギー・環境・地質研究所) 林業試験場 (R1-R3)	b	b	b	B	引き続き予測精度の向上や地域特性に考慮して検討を進めること。	B	引き続き予測精度の向上や地域特性に考慮して検討を進めること。
北海道想定地震に対応した住宅等の復旧・耐震改修技術の開発							
○建築性能試験センター 北方建築総合研究所 (R1-R3)	b	b	b	B	住民に受け入れられる改修技術となるよう、負担可能なコスト、費用対効果を意識した開発に取り組むこと。マニュアル等には、開発技術のコスト、被害低減効果を反映させるとともに、様々なケースを想定した実用的な支援策も検討すること。	B	住民に受け入れられる改修技術となるよう、負担可能なコスト、費用対効果を意識した開発に取り組むこと。マニュアル等には、開発技術のコスト、被害低減効果を反映させるとともに、様々なケースを想定した実用的な支援策も検討すること。